

令和6年度 学生による地域フィールドワーク研究助成 中間報告書

大学等名： 高岡法科大学

代表学生： 木村 蓮

指導教員： 渡部 朗子

<p>研究題目 (応募部門)</p>	<p>高岡市内の空き家の利活用・リノベーションと地域の活性化の取り組み事例からみる法的課題の考察</p>
<p>研究概要</p>	<p>高岡市内の空き家の利活用・リノベーションと地域の活性化の取り組み事例から、空き家の利活用・リノベーションをきっかけとして、地域の活性化に取り組む際に直面する法的課題を現地調査、インタビューをすることにより明らかにする。そして、その法的課題に対して、現行の法制度や必要と考えられる新たな取り組みを解明する。</p>
<p>これまでの活動状況と今後の活動予定 (300字程度)</p>	<p>高岡市内の空き家の利活用・リノベーションと地域の活性化の取り組み事例を調査するために、10月11日に博労町まちかどサロン、11月1日にほんまちの家、11月5日に山町ヴァレー、11月13日にさまのこハウスへ行き、現地調査と同時に空き家の利活用・リノベーションに携わった方々へインタビューをした。</p> <p>インタビューをして明らかになったことは、①高岡市内の空き家の利活用・リノベーション事例の中には、重要伝統的建造物群保存地区に選定されている地域もあるが、それだけでなく、保存していこうとする地域住民のみなさんの熱意に支えられて実現した事例があること、②地域防災対策として高岡市も関わった事例があること、③空き家の利活用・リノベーションに関して、所有権不明土地問題など、高岡市以外にも共通する法的課題があること、である。</p> <p>今後も調査、検討を継続し、法的課題を明らかにして考察する。</p>
<p>当初予定と変更がある場合は変更点を記述ください。</p>	<p>現時点では変更点はありません。</p>

図1 インタビューの様子



図2 現地調査の様子



図3 ほんまちの家（参考）

